

# 第1四半期報告書

本書は、EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)システムを利用して金融庁に提出した第1四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものです。

新コスモス電機株式会社

(E02027)

# 目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
(1) 【株式の総数等】	6
① 【株式の総数】	6
② 【発行済株式】	6
(2) 【新株予約権等の状況】	6
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	6
(4) 【ライツプランの内容】	6
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	6
(6) 【大株主の状況】	6
(7) 【議決権の状況】	7
① 【発行済株式】	7
② 【自己株式等】	7
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
(1) 【四半期連結貸借対照表】	10
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	12
【四半期連結損益計算書】	12
【第1四半期連結累計期間】	12
【四半期連結包括利益計算書】	13
【第1四半期連結累計期間】	13
(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】	14
【注記事項】	15
【セグメント情報】	17
2 【その他】	17
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	18
レビュー報告書	巻末

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成27年8月10日
【四半期会計期間】	第57期第1四半期（自平成27年4月1日至平成27年6月30日）
【会社名】	新コスモス電機株式会社
【英訳名】	NEW COSMOS ELECTRIC CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 重盛 徹志
【本店の所在の場所】	大阪市淀川区三津屋中2丁目5番4号
【電話番号】	06-6308-3112(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員 管理本部長 飯森 龍
【最寄りの連絡場所】	大阪市淀川区三津屋中2丁目5番4号
【電話番号】	06-6309-1502
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員 管理本部長 飯森 龍
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期 第1四半期連結 累計期間	第57期 第1四半期連結 累計期間	第56期
会計期間	自平成26年4月1日 至平成26年6月30日	自平成27年4月1日 至平成27年6月30日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高 (千円)	4,279,688	4,315,365	19,189,847
経常利益 (千円)	311,650	192,989	2,237,649
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 (千円)	203,423	120,719	1,364,341
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	266,777	106,547	1,965,042
純資産額 (千円)	23,724,387	25,231,996	25,422,571
総資産額 (千円)	29,017,336	30,892,503	31,045,755
1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	16.46	9.77	110.38
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	81.4	81.3	81.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	686,559	439,666	1,889,765
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△736,564	△603,664	△3,425,831
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△289,958	△280,579	△297,155
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高 (千円)	10,313,756	8,441,997	8,886,154

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。
5. 「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期（当期）純利益」を「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」としております。

## 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、当第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、設備投資や輸出の増加傾向が続いており、国内外需要や雇用・所得環境などの改善が見られ、景気は緩やかな回復基調となりました。

このような環境の中、当社グループは、家庭用ガス警報器、工業用定置式ガス検知警報器、携帯用ガス検知器、さらには住宅用火災警報器の開発から、独自のガスセンサ技術を活かした保安機器や省エネルギーに貢献する機器の開発など、より一層、安全で快適な環境づくりに貢献するために、高性能・高品質な商品の開発に取り組んでまいりました。

その結果、売上高は43億1千5百万円（前年同四半期比0.8%増）となりました。利益につきましては、経常利益は1億9千2百万円（前年同四半期比38.1%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億2千万円（前年同四半期比40.7%減）となりました。

当第1四半期連結会計期間の財政状態について、総資産は、前連結会計年度に比べ1億5千3百万円減少して308億9千2百万円（前期末比0.5%減）となりました。

これは主に、たな卸資産の増加3億5千4百万円、投資有価証券の増加3億3千4百万円があったものの、現金及び預金の減少4億4千4百万円、受取手形及び売掛金の減少4億1千4百万円によるものです。

負債は、前連結会計年度に比べ3千7百万円増加して56億6千万円（前期末比0.7%増）となりました。

これは主に、その他に含まれている未払金等の減少1億9千7百万円、未払法人税等の減少1億9千1百万円があったものの、賞与引当金の増加2億7千9百万円、支払手形及び買掛金の増加1億2千万円によるものです。

純資産は、前連結会計年度に比べ1億9千万円減少して252億3千1百万円（前期末比0.7%減）となりました。

これは主に、利益剰余金の減少1億7千5百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は、81.3%となりました。

当社グループの事業は、ガス警報器事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載の代わりに商品別概況を記載いたしております。

当社グループの商品別概況は、次のとおりであります。

#### ①家庭用ガス警報器

拡販に努めましたが販売が伸び悩み、売上高は19億9千4百万円（前年同四半期比3.6%減）となりました。

#### ②工業用定置式ガス検知警報器

電力業界及び石油化学業界向けガス検知警報器の需要が好調に推移し、売上高は12億4千万円（前年同四半期比9.0%増）となりました。

### ③業務用携帯型ガス検知器

鉄鋼業界向け一酸化炭素測定器の拡販に努めた結果、売上高は10億1千6百万円（前年同四半期比0.2%増）となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動において増加したものの、投資活動及び財務活動において減少し、前連結会計年度末に比べ4億4千4百万円減少して84億4千1百万円（5.0%減）となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、4億3千9百万円（前年同四半期比36.0%減）となりました。

これは主に、たな卸資産の増加3億5千4百万円及び法人税等の支払額2億6千4百万円があったものの、売上債権の減少4億1千4百万円及び賞与引当金の増加2億7千9百万円、税金等調整前四半期純利益1億9千2百万円、減価償却費1億8千7百万円によるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果流出した資金は、6億3百万円（前年同四半期比18.0%減）となりました。

これは主に、投資有価証券の取得による支出3億5千8百万円及び有形固定資産の取得による支出2億3千万円によるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果流出した資金は、2億8千万円（前年同四半期比3.2%減）となりました。

これは、配当金の支払いによるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、4億6千8百万円（売上高比10.9%）となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況等に重要な変更はございません。

当第1四半期連結累計期間の主な研究成果は、次のとおりであります。

#### 工業用定置式ガス検知警報器

・医療現場の滅菌装置等に使用されるエチレンオキシドの漏えいを検知する、エチレンオキシドガス警報器を開発しました。

#### 業務用携帯型ガス検知器

・独自の超小型接触燃焼式センサを搭載し、単4形アルカリ乾電池1本で34時間以上連続使用が可能なポケット型ガス検知器を開発しました。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,561,000	12,561,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	12,561,000	12,561,000	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減 額(千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年4月1日～ 平成27年6月30日	—	12,561	—	1,460,000	—	934,443

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200,800	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 12,358,900	123,589	—
単元未満株式	普通株式 1,300	—	—
発行済株式総数	12,561,000	—	—
総株主の議決権	—	123,589	—

② 【自己株式等】

平成27年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 新コスモス電機株式会社	大阪市淀川区三津屋中 2丁目5番4号	200,800	—	200,800	1.60
計	—	200,800	—	200,800	1.60

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、神明監査法人及び協立監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,189,654	8,745,597
受取手形及び売掛金	6,037,755	5,623,547
商品及び製品	1,082,376	1,284,619
仕掛品	1,075,256	1,220,051
原材料及び貯蔵品	1,264,249	1,271,728
繰延税金資産	219,602	219,895
その他	274,584	271,941
貸倒引当金	△87,282	△91,452
流動資産合計	19,056,197	18,545,929
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,722,288	2,684,799
機械装置及び運搬具（純額）	293,233	274,450
土地	2,881,713	2,881,713
建設仮勘定	199,047	258,470
その他（純額）	473,678	463,752
有形固定資産合計	6,569,960	6,563,187
無形固定資産		
ソフトウェア	447,607	454,939
ソフトウェア仮勘定	52,832	4,867
その他	34,018	33,993
無形固定資産合計	534,459	493,800
投資その他の資産		
投資有価証券	4,228,391	4,563,387
繰延税金資産	—	55,807
退職給付に係る資産	57,756	72,046
その他	600,512	600,164
貸倒引当金	△1,523	△1,819
投資その他の資産合計	4,885,137	5,289,585
固定資産合計	11,989,557	12,346,574
資産合計	31,045,755	30,892,503

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年 3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年 6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,551,298	2,672,128
未払法人税等	267,457	75,519
賞与引当金	344,734	624,195
製品保証引当金	124,526	120,829
その他	1,148,170	948,493
流動負債合計	4,436,187	4,441,165
固定負債		
退職給付に係る負債	911,715	928,061
役員退職慰労引当金	198,517	175,235
繰延税金負債	70,456	109,737
その他	6,307	6,307
固定負債合計	1,186,996	1,219,341
負債合計	5,623,183	5,660,506
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,460,000	1,460,000
資本剰余金	934,443	934,443
利益剰余金	21,990,267	21,814,344
自己株式	△285,817	△285,817
株主資本合計	24,098,894	23,922,971
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	974,812	966,257
為替換算調整勘定	138,047	138,448
退職給付に係る調整累計額	97,349	89,996
その他の包括利益累計額合計	1,210,209	1,194,702
非支配株主持分	113,467	114,322
純資産合計	25,422,571	25,231,996
負債純資産合計	31,045,755	30,892,503

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	4,279,688	4,315,365
売上原価	2,280,185	2,328,187
売上総利益	1,999,502	1,987,178
販売費及び一般管理費	1,706,701	1,831,046
営業利益	292,801	156,132
営業外収益		
受取利息	2,293	4,343
受取配当金	15,840	17,035
為替差益	—	3,215
その他	6,960	12,992
営業外収益合計	25,094	37,586
営業外費用		
為替差損	5,695	—
その他	550	729
営業外費用合計	6,245	729
経常利益	311,650	192,989
特別利益		
固定資産売却益	1,959	55
特別利益合計	1,959	55
特別損失		
固定資産除却損	80	75
特別損失合計	80	75
税金等調整前四半期純利益	313,529	192,969
法人税等	109,246	70,914
四半期純利益	204,282	122,054
非支配株主に帰属する四半期純利益	859	1,335
親会社株主に帰属する四半期純利益	203,423	120,719

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益	204,282	122,054
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	89,544	△8,555
為替換算調整勘定	△25,474	400
退職給付に係る調整額	△1,575	△7,352
その他の包括利益合計	62,494	△15,506
四半期包括利益	266,777	106,547
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	265,917	105,212
非支配株主に係る四半期包括利益	859	1,335

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	313,529	192,969
減価償却費	119,497	187,467
有形固定資産除売却損益(△は益)	△1,879	19
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△7,495	4,466
賞与引当金の増減額(△は減少)	262,892	279,461
製品保証引当金の増減額(△は減少)	△15,501	△3,697
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△15,684	△8,920
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	5,010	△23,281
受取利息及び受取配当金	△18,133	△21,378
売上債権の増減額(△は増加)	491,347	414,267
たな卸資産の増減額(△は増加)	△260,883	△354,453
仕入債務の増減額(△は減少)	84,327	120,791
その他	50,149	△107,628
小計	1,007,175	680,084
利息及び配当金の受取額	18,035	24,344
法人税等の支払額	△338,651	△264,762
営業活動によるキャッシュ・フロー	686,559	439,666
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△736,495	△230,587
有形固定資産の売却による収入	3,338	55
無形固定資産の取得による支出	△8,821	△17,653
投資有価証券の取得による支出	△1,513	△358,481
貸付金の回収による収入	—	1,675
その他	6,927	1,327
投資活動によるキャッシュ・フロー	△736,564	△603,664
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△289,478	△280,099
非支配株主への配当金の支払額	△480	△480
財務活動によるキャッシュ・フロー	△289,958	△280,579
現金及び現金同等物に係る換算差額	△21,102	420
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△361,065	△444,156
現金及び現金同等物の期首残高	10,674,822	8,886,154
現金及び現金同等物の四半期末残高	※10,313,756	※8,441,997

## 【注記事項】

### (会計方針の変更)

#### (企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

### (四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

#### (税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## (四半期連結貸借対照表関係)

## 保証債務

以下の組合及び会社の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
尼崎武庫川工業団地協同組合	13,938千円	10,740千円
Bionics Instrument Europe B.V. (450,000ユーロ)	58,644千円	61,753千円
計	72,582千円	72,493千円

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
現金及び預金		
現金及び預金勘定	10,423,756千円	8,745,597千円
預入期間が3カ月を超える定期預金等	△110,000千円	△303,600千円
現金及び現金同等物	10,313,756千円	8,441,997千円

## (株主資本等関係)

## I 前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)

## 配当支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	296,643	24	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

## II 当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

## 配当支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	296,642	24	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年6月30日）及び当第1四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年6月30日）

当社グループの事業は、ガス警報器事業の単一セグメントでありますので、記載を省略いたしております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであり、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	16円46銭	9円77銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	203,423	120,719
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	203,423	120,719
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,360	12,360

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年8月8日

新コスモス電機株式会社

取締役会 御中

## 神明監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 古村 永子郎 印

## 協立監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 南部 敏幸 印

私どもは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている新コスモス電機株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

私どもの責任は、私どもが実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。私どもは、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

私どもは、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

私どもが実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、新コスモス電機株式会社及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と私ども両監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。